

令和3年7月21日

総合教育会議資料

学校教育課

1 GIGAスクール構想の取組について

(1) 現在の状況

① 教職員の対応について

教職員は、PC導入に係る各種研修会に意欲的に参加し、そこで得た知識・技術の積極的な活用を試みている。

各学校では、教職員が自信をもって活用できるように、ICT支援員（業者）による授業支援や、ICT推進リーダー（教員）を中心とした校内研修を実施している。

② これまでの統一した流れ

【4月から5月】

◎各校で教職員対象のPC導入研修会を実施（導入業者による）

- ・児童生徒PCの初回ログイン手順や、ソフトウェアの活用方法について

【4月2日～6月11日】

◎上記研修会后、各校で児童生徒による初回ログインを実施

【6月】

◎各家庭に同意書の提出を求め、端末の持ち帰りを実施

- ・家庭のWi-Fi環境への接続確認を行った（6月末まで）

③ 取組状況

ア：タブレットドリル

- ・授業最後の確かめの時間や朝学習、自習の時間などに活用

イ：マイクロソフトTeams

- ・学級や班などでチームをつくり、チーム内でメッセージのやり取りやテレビ会議、ワード・エクセル・パワーポイントなどの共同作業ができる

【活用例1】図工の授業

- ・各児童が学校の好きな場所を描くという授業で、教員は教室にしながら児童全員とteamsでつながり、コミュニケーションをとることができる

【活用例2】全校朝会

- ・体育館にみんなが集まらずに、教室で校長先生の話をしている

ウ：授業支援システム（ミライシード）

【活用例1】授業支援機能

- ・児童生徒がPCで入力した自分の考えを、クイズ番組のようにひとつの画面に映し出すことができる（全員分）

【活用例2】プレゼンテーション機能

- ・児童生徒が発表資料を共同で作成することができる

【活用例3】プログラミングソフト

- ・自分の描いた絵を動かすことができる

④ 教育委員会として

- ・ICT推進リーダー研修会を teams で行い、現在の各学校の取組状況について共通理解を図っている。今後も、定期的に研修を行い、各学校の取組状況の共有を図っていく。
- ・G I G A新聞を発行し、学校の取組を紹介していく。
- ・全校の足並みがそろうように、いつまでに何をするのかを校長会等で示していく。

⑤ その他の活用方法として

- ・欠席連絡・学校の紹介・アンケートの作成及び集計・保護者宛文書の電子化など

(2) 課題について

① ICT支援員の対応状況について（特に学校におけるトラブル発生時）

- ・ICT支援員は、各小中学校に毎月2回訪問している（1日8時間）。
 - ※ICT支援員の業務内容について、現在はPCのトラブル等に対応する時間が多くなっており、本来の主たる業務である授業支援の時間が充分に取れない状況にある学校も見受けられる。
 - ・上記のような状況にあるため、保守の一環としてヘルプデスクを設けているが、あくまでPC本体の故障受付窓口なので、教育委員会職員も電話や訪問の対応に追われ業務に支障をきたしている。
- 同様に、学校においては、教頭、教務主任等が対応している。

② 機器依存症の防止について

PC等の使用に際しては、児童生徒の健康面への影響も考慮したうえで、長時間使用を避けることをガイドラインや児童生徒用の「端末使用の約束」の中で明記したり、ホームページにも掲載し、家庭と連携を図りながら指導している。

教育委員会のホームページにも県の通知にリンクできるようにしている。

現在、持ち帰りをした場合、インターネットへの接続時間や時間帯に制限をかけられるか確認している。

③ 各学校の進捗状況について

- ・導入研修において、18校順次開催したため、一番早い学校で4月2日、一番遅い学校で5月18日と研修日が分散した。また、年度当初、事務処理や会議が多く計画されており、体制の整備に時間を要した。さらに、学校によっては、運動会や体育祭などの大きな行事があったため、学校の取組状況に差が生じていることは確かである。
- ・モデル校では、教頭、教務主任、ICT推進リーダーを中心に、ICTを得意とする教員が多く、学校全体で推進している。
- ・各学校では、パソコンを得意とする教員と不得意とする教員がいるため、学級によって差が生じないよう各学校が組織的に活用方法等を共有するなど計画

的に取り組んでいる。

(3) 今後の計画について

- ① 学習用端末の使い方については「G I G Aスクール構想に係る富士見市教育ビジョン」において、「1人1台端末を課題解決のツールとして効果的に活用し、他者とかかわりながら自らの学びを深める児童生徒の育成」と明記している通り、ビジョンの実現に向け取り組み、学力向上を目指していく。
- ② 端末を使うことが目的ではなく、端末を活用して主体的・対話的で深い学びを充実させ、児童生徒一人ひとりの学力向上を目指し、活字とデジタル双方のよさを生かしていく。
- ③ 現在、ログイン、teams の操作、持ち帰りの家庭のWi-Fi 環境における端末接続確認を終えた。今後は、タブレットドリル、授業支援システムの使用状況について確認していく。
- ④ 長期の持ち帰りについては、各学校の課題を明確にし、課題解決に向けた研究をしていく。